

項目	3 これからの人とコンピューターが共存する社会に向けた探究学習の推進について
答弁者	教育長
質問要旨	<p>ChatGPTのような対話型A Iの普及は、人間が自然言語でコミュニケーションを行うという行為をコンピューターの操作にまで拡張した。この進展はコンピューターの歴史における重要な節目である。</p> <p>今後、人間とコンピューターのコミュニケーションは遥かに洗練され、対話は自然なものとなり、精度の高い情報が即座に提供されることが想像できる。従って、これからの人とコンピューターが共存する社会に向けた教育は、決して先送りする課題ではなく現在進行形の課題である。</p> <p>ChatGPTの急速な普及を受けて、文部科学省は生成A Iの利用に関する暫定ガイドラインを公表し、県教育委員会も県立高校に対して取扱いの注意事項を示した。</p> <p>A Iの技術やコンピューターは進化していく。教育長は探究学習に力を入れて取り組んでいるが、社会の中でコンピューターに任せられる役割は何か、人間にしか担えない役割は何かを見極める力を養い、コンピューターを活用することによって、これまでの学習指導要領の枠にとらわれない発想が子供たちから生まれてくる可能性も広がるのではないかと。</p> <p>静岡県が掲げる探究学習を推進する上で、日進月歩で発展するコンピューターをどう活用していくのか伺う。</p>

<答弁内容>

これからの人とコンピューターが共存する社会に向けた探究学習の推進についてお答えいたします。

生成A Iが社会変革の主演として期待され、今後、これまで人が得意としてきた領域でもその能力を凌駕していくことが予測されます。議員御指摘の人とコンピューターが共存する社会を見据えれば、その中を生き抜く力として、過去の発想にとらわれず新たなアイデアを生み出す創造力や、よりよい未来を様々な人と協力し実現するための関係構築力などが、今後ますます重要になるものと考えております。

私が重視する探究的な学びは、自ら問いを立て、協働して答えを導き出す過程を通じて、こうした能力を高めることができる優れた手法であり、社会が急速な技術進歩の中にあるからこそ、欠かすことのできない学びのプロセスであると認識しております。

探究的な学びの中で、生成A IなどのICTを解決策そのものの作成に用いてしまうと、それらしい回答が生徒の思考を経ずに示されるだけとなり、批判的思考力や創造性、学習意欲などへの影響が懸念されます。しかしながら、生徒が基礎知識を持って、適切に使いこなすことで、その活動に更に深みを与え、幅を広げることが期待されます。

このため、探究的な学びを進めるに当たっては、最終的なアウトプットに至るまで

の過程において、情報の収集、または新たな視点の獲得、さらには子供たちの認識だけでは立ち上がらない問いへの気付きなどに生成A Iを活用するとともに、それらの結果を情報端末で共有するなど、主体的かつ協働的な学びを進めてまいります。

県教育委員会といたしましては、探究的な学びを通じ、子供たちがコンピューターの得意、不得意とする分野を理解し、創造力、関係構築力などの資質能力について、その重要さを体験的に把握した上で獲得できるよう努め、コンピューターと共存する社会の中で力強く生き抜く力を育成してまいります。

以上であります。